



# 仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1  
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

## 第81回定時総会



2024年5月30日(木)10時から仙台第一生命ビル6階会議室を会場に、第81回定時総会を開催しました。議決権行使者は、正会員数219名のうち、会場出席者31名、書面議決者77名及び代理人に議決を委任した者28名の合計136名で会員数の過半数の定足数を満たし、総会は成立しています。

会議は見上一幸会長が議長を務め、報告事項及び決議事項の全議案は第1回の理事会の決議を経ており2024年度事業計画書については専務理事から、収支予算書については事務局長より報告があり審議の結果了承の決議がなされました。続いて、第1号議案2023年度計算書類等については、事業報告書については専務理事より計算書類については事務局長より報告があり、審議の結果了承の決議がなされました。当協会は会員の皆様のご協力により積極的な活動が実施されてきております。引き続きご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。(事務局長：針生真由美 記)



## 3/2(土) SALON国際交流事業 「華道」

3月、これから暖くなる季節を思い、留学生に生け花講座を体験頂きました。

鉄花器を使用した大きな作品、水中花、浮花、一輪挿し、盛花という5作品を紹介、その後、留学生それぞれ、花を生ける体験を試みました。ガラスの器に花を生け、生けた花をそのまま自宅に持ち帰る。お部屋に花のある生活を楽しんで頂けたら嬉しいですね！そんな思いを込めて、留学生の皆様が生け花体験をして頂きました。

日本に於ける生活は、枕草子に描かれるように、着用する着物の選び方、歌を詠む作品など、少し先の季節を如何に日常に表現するか、捉えるか、のセンスを大切な価値と見る点があったように思います。勿論、現代は異なる視点や要素も沢山ございますが…ただ、植物を大切に思い、身近な生活空間に、植物、花と共にある生活を、留学生の皆様体験頂けたなら大変嬉しく思います。

私は、そんな思いを込めて、生け花を皆様で紹介致しました。(講師・理事：村井えみ子 記)



生け花の手法のプレゼンテーション

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

# 防災と自分の身を守るプロジェクト

3.11東日本大震災から13年目となった3月9日(土)、10日(日)の2日間、エスパル仙台1階スクエアにおいて、国際交流事業の一環として「防災と自分の身を守るプロジェクト」を開催しました。仙台ターミナルビル(株)様に共催をアイリスオーヤマ様、アートウェイ音楽事務所様、河合楽器製作所様、カワイ楽器様、仙台ロータリークラブ様から協賛を戴いた他、多くの団体様のご協力で、ステージ発表、ブース展示・ワークショップ、映像など、盛りだくさんのプログラムが充実した内容で行われ、盛りあがった2日間となりました。

防災・自分の身を守ることと国際交流という主テーマについては、多文化社会専門職機構の菊池哲佳氏から「防災×多文化共生」として示唆に富む貴重な発表があり、意義深い内容となりました。

ユネスコスクールである、多賀城高校、仙台二華高校の研究発表、宮城教育大学附属小学校児童によるタブレットを駆使した発表、聖ウルスラ学院英智高校の合唱、書道部によるパフォーマンスは、見る人に強い感動を届けました。仙台市立立町小学校合唱団の心うたれる歌声には、歩く人も足を止めて聞き入っていました。さらに、東北大学国際祭り実行委員会、NPO法人「ロシナンテス」、防災士阿部清人氏、青年部からの報告があった他、留学生の発表もあり、国際交流事業らしい、ユネスコならではのプロジェクトとなりました。

今後、今回のプロジェクトで皆様から戴いた貴重な発表、提言などを、皆で大切な気づきとして共有し、共に防災・命を守る取り組みを進めて参ればと存じます。併せて、共に平和を希求し国際交流を深めていく一つのきっかけとなればとも考えております。(副会長：西條清和、内藤恵子 記)

※写真は参加してくれた児童・生徒の皆さん



聖ウルスラ学院英智高 書道部



聖ウルスラ学院英智高 合唱部



仙台二華高生の発表



仙台市立立町小 合唱団



多賀城高生と留学生



宮城教育大学附属小5年生

## ユネスコ会員企業紹介

### ～SDGsの取り組みについて～

#### アイリスオーヤマ(株)

アイリスオーヤマは東日本大震災発生から11年となる2022年3月11日、被災地に残る地域課題の解決と東北経済の活性化を目的に「3.11プロジェクト」を発足しました。このプロジェクトでは“震災の記憶を風化させない 20年目へのスタート”をコンセプトに掲げ、主に「人」「農業」「産業基盤」の分野において、地域課題の解決と東北経済の活性化、そして震災の伝承と情報発信に取り組んでいます。



#### ■東北を愛する「人」を想って■

福島県が取り組む「福島12市町村※1移住促進事業」と連携し、福島県からアイリスオーヤマ公式通販サイト「アイリスプラザ」内の買い物に使用できる50,000ポイント(50,000円相当)を進呈しています。また、震災遺構として保存される仙台市立荒浜小学校との取り組みとして、HOPE FOR project※2が主催する3.11追悼イベントへの協賛や、同校に備蓄する防災用品や同校の運営で必要な商品を贈呈しています。

#### ■「農業」の復活・活性を願って■

当社は、東日本大震災の被災地における農業の復興を目指して、2013年に精米事業に参入し、被災地で作られた米の全量買取りや、お餅の販売を進めてきました。さらに、福島県沿岸部では、株式会社舞台

ファーム※3が営農再開ビジョンのフラッグシップとして稲の作付けに取り組んでおり、アイリスグループはそこで生産された玄米を買取り、「バックごはん」として販売しています。

#### ■東北の「産業」基盤を創る■

当社のグループ会社である㈱アイリスプロダクトは、福島原発事故により、深刻な被害を受けた福島県浜通りにおける産業振興と雇用の創出を目指して、2022年にアイリスプロダクト「南相馬工場」を設立しました。人工芝や脱酸素剤、バックごはん用トレイなどを製造しており、雇用の創出ともものづくりで福島県の復興に繋がりたいという想いがあります。

その他、東日本大震災による津波で失われた仙台東部地域のみどりを再生することを目的に、仙台市が運営する「ふるさとの杜再生プロジェクト 育樹会」にボランティアとして参加しています。

今後も、当社は復興支援の取り組みである「3.11プロジェクト」を通じて東北支援を続け、東日本大震災被災地域の課題解決に貢献します。



※1: 福島12市町村とは、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村をいいます。

※2: 仙台市の荒浜小学校・七郷小学校・七郷中学校卒業生が中心となっている団体。

※3: 本社: 仙台市若林区、代表取締役社長: 針生 信夫氏。

〒980-8510 宮城県仙台市青葉区五橋2-12-1  
TEL 022-221-3400  
<https://www.irisohyama.co.jp/>

#### (株)金魂

当社は昭和61年、仙台市二日町において弁当製造販売業を創業。その後、金色の魂を込めて美味しい料理を提供することを経営理念とした会社を設立し「㈱金魂」と命名致しました。現在は仕出し部門の「弦月庵」、旧伊達伯爵邸「鍾景閣」、東松島市の割烹仕出し「東松庵」、貸会議室「茂庭荘」、社員食堂(東北労働金庫、セイコーインスツル)を運営しております。



仕出し部門では様々なシーンに沿った料理を取り揃え、個人のお客様はもとより企業様、各大会、会議、葬祭会館等でもご利用いただいております。第3回国連防災世界会議開会式終了後に開催された天皇陛下主催昼食会では松花堂弁当を提供させていただきました。同日、総理大臣主催昼食会では鍾景閣の筆筒料理を提供。この筆筒料理は、仙台筆筒に会席料理を納めた伝統的なもので伊達文化を感じられるとご好評をいただいております。自然息づく茂庭の地に復元された、明治後期の和風建築の風情とともに楽しみいただけます。

東松庵については、東松島市と支援協力に関する

協定を締結し、災害時の食料提供や駐車場の一時避難場所としての提供、経済の活性化と地元雇用促進に協力したいと考えオープンし、地元の皆様に愛される会館となりました。



仙台筆筒料理

また、茂庭荘は令和4年福島県沖地震の設備被害により宿泊業は休止、再開に向けて動いておりますが、出来る限り活用していただきたいと思い、貸会議室と屋外バーベキューを行っております。

これまでコロナ禍でも苦境に立たされる場面はありましたが、提供方法の見直し等を行い、お客様に支えられながら今日があります。少しでも皆様のお役に立てるよう今後も知恵を出し合い食の安全、安心、健康、地産地消を追求していきたいと考えております。

「美味しい喜びを伝える」を社是とし、一人でも多くのお客様に魂のこもった美味しい料理をお届け出来るよう、全社一丸となって取り組んでまいります。



弦月庵弁当

〒982-0251 宮城県仙台市太白区茂庭字人來田西143-3  
TEL 022-398-5735 FAX 022-398-5712  
<https://ajinokincon.co.jp/>

# 青年部だより

## 「今年の青年部は熱い！」

青年部は、夏の2つの大きなプロジェクトに向かって取り組んでいます。

### 1つ目は「平和祈念七夕プロジェクト」

昨年度に引き続き、このプロジェクトを全面的に支援していただくのは、七夕飾り専門店の「マルイチ壹岐様」と「仙台駅東口商工事業組合様」。継続的な支援のお約束をしていただきました。中心となって活動するのは、青年部前代表の仲海渡。参加高校生は公募します。

七夕飾り制作は 7月の土曜日4日間と8月3日の13:00~16:00。初回は顔合わせとデザイン決定。2回目は仙台七夕祭りの歴史と文化を知る講座になります。七夕期間中は仙台東口宮城野通に飾りを設営、短冊を書いていただくブースを設け、市民や観光客と交流します。

### 2つ目は「第6回宮城ユネスコ子どもキャンプ」

青年部の中心的な活動であったキャンプは、コロナ禍での4年間のブランクの後、ようやく開催にこぎつ

けました。企画の中心になっているのは現代表の吉田彩音。自身が中学生として参加していたキャンプを次代の子どもたちに体験させたいと、同じ思いの大学生・高校生と共に実現にこぎつけました。

十数回のオンラインミーティング、現地での研修や他のキャンプ参加を重ね、周到に準備しています。

キャンプは、8月14日(水)~15日(木)の一泊二日。会場はオーエンス泉岳自然ふれあい館。参加できるのは、小学4年生~中学3生まで。

外国人のお子さんも参加可能、スタッフとして、中国語と英語が話せる留学生も参加します。

(前代表：仲海渡、現代表：吉田彩音、担当：菊地恵美子、内藤恵子記)



ふれあい館との打ち合わせと現地下見。あいにくの雨と霧でした

## 能登半島地震募金活動

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」への募金を、1月25日から3月31日まで行いました。個人募金額は138,000円、3月9、10日にエスパルススクエアで行われた「防災と自分の身を守るプロジェクト」時にいただいた募金額は11,936円、合計149,936円でした。趣意にご賛同いただき、募金していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

4月19日に全額を「災害子ども教育支援募金」を行っている(公社)日本ユネスコ協会連盟(日ユ協)に寄託いたしました。

なお、「災害子ども教育支援」は被災地のニーズに応じて ①被災した学校等への支援 ②子どもたちへの奨学金支援 ③被災地に赴くユース・ボランティアへの支援を柱とした支援を行います。

(事務局長：針生真由美 記)

## これからの行事予定

- 7月7日(日)「民間ユネスコ運動の日」記念講演会
- 8月6(火)~8日(木) 平和祈念七夕飾り
- 8月14(水)、15日(木) 第6回宮城ユネスコ子どもキャンプ

### 【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子  
 畠山 明 岩山 浩一  
 佐藤 皇季 千葉 雅保

### 【編集後記】

ユネスコ会報475号をお届けします。5月30日に開催された第81回定時総会では、2023年度は青年部が「平和祈念七夕プロジェクト」を立ち上げ、コロナ禍以前と変わらぬ活発な事業が行われたとの報告がありました。2024年度は「平和祈念七夕プロジェクト」に加え宮城ユネスコ子どもキャンプも再開され、幅広い年代で活動の輪が広がります。皆様もお仲間に加わって、いっしょに活動しませんか。 仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子

## 書きそんじハガキ・キャンペーン2024 ご協力ありがとうございました

皆様のご協力をいただき総計238枚が集まりました。これらのハガキは12,367円の切手に交換して日本ユネスコ協会連盟に寄贈することができました。

書きそんじハガキは、「ユネスコ世界寺子屋運動」として1989年开始し、皆さまのご協力のお陰で、これまでに44ヶ国1地域で538の寺子屋を建設し、135万人以上が教育学習を学ぶことができました。今後もSDGsの達成に向けた取り組みのひとつとして、世界各地の貧困地域で「学ぶ場=寺子屋」を通して人材を育成し、自立した持続可能な社会を応援して参ります。引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。(副会長：松坂宏造 記)



### 会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

### 仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	77
個人会員	124
青年部会員	9
合計	210

(5月末現在)

### 【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子  
 畠山 明 岩山 浩一  
 佐藤 皇季 千葉 雅保

### 【編集後記】

ユネスコ会報475号をお届けします。5月30日に開催された第81回定時総会では、2023年度は青年部が「平和祈念七夕プロジェクト」を立ち上げ、コロナ禍以前と変わらぬ活発な事業が行われたとの報告がありました。2024年度は「平和祈念七夕プロジェクト」に加え宮城ユネスコ子どもキャンプも再開され、幅広い年代で活動の輪が広がります。皆様もお仲間に加わって、いっしょに活動しませんか。 仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子